

第26回 今後の治水対策のあり方に関する有識者会議 議事要旨

平成24年10月29日（月）18:00～19:55

中央合同庁舎2号館1階 国土交通省共用会議室3A, 3B

【出席者】

中川座長、宇野委員、三本木委員、辻本委員、道上委員、山田委員、伴野副大臣、橋本政務官、足立水管理・国土保全局長

【ダム事業の検証の検討結果について】

○今回は、検討主体から国土交通大臣に報告されたサンルダム、戸草ダム、浦上ダムの検討結果について説明を受け、有識者会議から意見等を述べた。

○委員の主な発言は以下のとおり。

- ・サンルダムでは、この地方が米作の北限であり、いろいろと苦勞をしているはずであるが、農業用水について議論がされていないように感じる。この点については、報告書の中に、農業用のダム、ため池が記載されており、このことから大変な苦勞が伺える。また、不特定補給の多くが灌漑用水に用いられていることから、農業用水が重視されていることがわかる
- ・河道掘削により、サケやサクラマス産卵場を乱すことがないか危惧される。

[河道掘削は平水位以上としており、影響は小さいと考えている旨を事務局から説明。]

- ・日本全体で魚道の技術は向上している。今後、アジアにおいて非常に貢献できる技術であると思う。
- ・ダムが出来ることによって魚類がダム湖から上流まで移動するのか、試験を繰り返し、検討しながら事業を進めてもらいたい。
- ・戸草ダムの場合、河川整備計画で概ね決定されたことを、今回、明確に決定するものと理解される。
- ・三峰川総合開発事業として残る美和ダムの再開発では、堆砂したもの

を排出することが重要な事業になっている。下流にダムがある場合など、水系一貫で土砂について考えることが必要である。これからの研究課題とすべき。

- ・ 浦上ダムについては、長崎大水害から 30 年というのは時間がかかりすぎなのではないかと感じる。この点については、激甚災害対策特別緊急事業等、出来るところから逐次実施するとともに、利水対策も万全の体制で進めてきたため、現在に至っているものと理解できる。
- ・ 昭和 20 年に完成しており、地震に対してどのような対策をしているのかについて、一般の人は、気になるのではないか。この点については、かさ上げするにあたり構造的安全性を当然考えて設計していると考えられる。
- ・ 今年の熊本の雨のように、これまでの経験を遙かに超えるような雨に対して、総合的な治水のあり方はどうあるべきかについて、このダムを契機として、一連のダム検証が終わった後に、継続の議題として欲しい。
- ・ 治水対策として、どこを優先するのかは、非常に大事である。ハード対策だけではなく、ソフト対策も必要。まずはどのレベルを対象とするのかが重要な議論である。
- ・ 北海道開発局のサンルダムと長崎県の浦上ダムは「継続」という内容であった。これらは、基本的には、中間とりまとめで示した「共通的な考え方」に沿って検討されたものであると理解できる。
- ・ これらの 2 ダムを継続する場合には、本日の意見について、十分に検討してもらいたい。
- ・ 中部地整の戸草ダムは「中止」という内容であり、従来からの手順や手法等によって検討がなされた。これは、「中間とりまとめ」についてのパブリックコメントを行った際に有識者会議が示した考え方に沿って検討されたものであると理解できる。